

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100046		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームやないづ 1階		
所在地	岐阜県岐阜市柳津町梅松1丁目91-1		
自己評価作成日	平成28年 8月31日	評価結果市町村受理日	平成28年 9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhou_detail_2016_022_kani=true&JkyosyoCd=2190100046-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成28年 9月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者、御家族の要望を取り入れたケアプランの作成し、個別支援を行っています。定期的に外出支援を行い、マンネリ化しない生活を送り、また、ホーム全員で外出し、楽しみが共有出来る様努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム開設から10年、職員も利用者も長い付き合いの中で、家族的な関りを大切にして過ごしてきた。支援面では、穏やかな暮らしを目指しながらも、認知症状の進行や種々の困難事例に直面し、職員は時には意見の相違から紛糾することもあった。しかし、それは利用者への思いを熱くする職員の誠実な気持ちからの衝突である。いつしか「雨降って地固まる」のこたわごのように職員の心を一にする結果となり、利用者本位の支援へと進化した。
今、職員は利用者の残存能力を最大限に引き出し、排泄、食事、入浴等、利用者の出来ることは無用な支援を避け、利用者を尊重した対応に努めている。利用者の暮らしの潤い探しとして、「うなぎが食べたい」「読書をしたい」「囲碁をしたい」等々、多くの思いを叶えるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の申し送りに理念を唱和し、理念に沿ったサービスが提供できるように実践している	法人理念に加えホーム独自の理念を策定し、ホーム内に掲示して毎日唱和している。	理念の唱和によって職員は理念を理解している。しかし、理念の実践に関する意識は希薄であり、定期的に理念について話し合い、実践に反映する仕組み作りに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動に参加する。 日課の散歩時、近隣の方へご挨拶する。	自治会に加入し、ホームの夏祭りを地域に案内している。祭りの目玉である鮎のつかみ取りや盆踊りを企画し、やぐらの設営は地域のボランティアの役割である。利用者の散歩の際には、住民と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講習を行い、認知症の理解を 広める活動を行う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各月、運営推進会議を行い、御利用者や家族、 行政などへ報告、相談を行っている。	隔月開催の運営推進会議は、利用者、家族、地域、行政の参加を得て、服薬・食事、災害時の地域協力、外部評価結果公表と、運営全般を取り上げている。参加者は忌憚のない意見を交換している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	民生委員の方へホーム内の情報提供を常 に行っている	管理者が行政を訪問し、運営報告、手続き、入居者情報の交換を行い、協力する体制を築いている。複数の生活保護者を受入れており、行政が定期的に利用者の様子を見にホームを訪ねている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についてホーム内研修を行っており、どのような行為が身体拘束にあたるかを常に話し合いを行っている。	職員は法人とホーム内の研修を受講し、拘束をしない介護の重要性を認識している。定期的に法人の書式「不適切ケアシート」を利用し、拘束、虐待など不適切な支援のないよう職員の振り返りを実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切ケア防止の取り組みを行っている。各月に研修を行い、チェックシートの活用しケアの見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者以外のスタッフは理解しておらず、今後ホーム内研修を行い勉強していきたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時などは時間をかけて、ご質問頂いた際には分かりやすく説明しご理解を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御利用者、またそのご家族に意見や要望を常に伺い、要望に沿ったケアを行っております。	外部評価の実施にあたり、家族アンケートを実施して全回答者から「満足」の回答を得た。開設から10年が経過しており、家族から要望の出した「洋式トイレの機能不具合の改修」を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議内や個別面談の実施において、スタッフの意見や要望を聞く機会を設け、取り入れています。	職員は毎月開催の会議に意見を表している。職員の定着が良く、ベテラン職員の多いことから落ち着いた雰囲気がある。当日、複数の職員から、気兼ねなく意見の言える働きやすい職場であると言を得た。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	公休希望を取り入れたシフト作成をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月一回ホーム会議を開き研修を行っています。外部の研修が受けられる際には全スタッフに参加を呼びかけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	エリアでの交流会(ボーリング大会)を行いました。また毎月、他ホームより研修講師に来てもらい研修を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	早くホームに慣れて頂けるよう、傾聴し不安の軽減に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意見を伺い、安心して利用して頂けるようこまめに報告、連絡を大事にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様や、ご家族様の思いを伺い、より良いサービス、支援に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様との関わりを多く持ち役割なども助け合い、一緒に生活しているという気持ちを大事にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ご本人様の様子をこまめに伝え、ご家族で過ごして頂く時間を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方から面会にきてくださったり、毎月ハガキを送ってくださるご家族様もみえ関係が途切れないよう支援しています。	家族同行の帰宅外出を支援している。ホーム周辺の散歩外出時に立寄るコンビニや喫茶店では、常連客として店の関係者と新たな馴染みの関係を築いている。利用者の趣味の読書、囲碁の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	役割や、レクなどその人その人に合ったケアをスタッフ、利用者様と行い利用者様同士の関係を大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も御家族がホームに立ち寄って頂けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話を大切にし本人様の意向を伺えるようにしています。意思疎通の出来ない方に対してはご家族様から意向を伺っています。	職員は日常の支援を通じて、何気ない利用者との会話を利用者の思いや意向を聴き取る機会としている。利用者の発語「うなぎを食べたい」は介護計画に取り上げ、「電車に乗りたい」は真意の背景を分析中である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から生活歴などを聞き取り把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の事を日々観察しスタッフ同士で情報を共有し把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にて、ご本人様やご家族様の意見、思いを伺い本人様の意向に沿ったケアプランの作成を行っています。	毎月、介護計画のモニタリング(計測)に全職員が取り組んでいる。利用者、家族の意見を確認し、3ヶ月を基準に変化の都度見直している。重度化から、利用者の意向の把握は難しいが、真正面から取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子、状態の変化など記録に残しケアプランの更新の際にいかしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状態やご家族様の意向を伺いながらケアプランに生かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な外出支援を行い、楽しみを作っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回提携医が往診に来て下さいます。また本人様やご家族様の希望により馴染みの病院へ通院される利用者様もみえます。	協力医はホームの良き理解者として月2回の往診を行い、職員である看護師と連携して利用者の健康管理に努めている。看護師は24時間365日の体制を敷き、緊急時に整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や表情、変化、気付いた事、また本人様の訴えがあった場合はすぐに看護師と連絡を取り相談できる体制となっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご利用者様の情報を医療機関に提供し入院中の経過につきましてはご家族様から連絡を頂き、またお見舞いにも行かせて頂いております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見取りケアの研修を行い、最後まで住み慣れたホームで生活が出来る様体制を整えています。	職員は、看護師を講師として看取りの研修を受けている。家族がホームでの看取りを希望する場合は、家族、医療関係者、職員を交えて受入れの可否を話し合い、体制を整えて対応できるよう準備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修にて定期的に急変時や事故発生時などの対応などの研修を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っています。地域の方からも何かあった際には協力するとの声を頂いています。	年2回の内1回は消防署の立ち合いを受け、消火、避難、夜間を想定した防災訓練を実施している。ホーム内に災害時の法人内連絡網を掲示し、法人とは別に、飲食の備蓄、防災グッズを備えている。	職員配置の手薄になる夜間は、特に地域との相互の協力が不可欠である。地域住民を招き、ホームに常設のAEDを利用して救急救命の講習を開く等、協力の輪を広げてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令口調ではなく人生の先輩である事を忘れず丁寧な声かけをするようスタッフは意識しています。	呼称は利用者の希望を優先し、失礼のない程度に好みの呼び方としている。利用者の支援にあたっては事前の了解、選択を大切に、利用者の思いに沿うことに努め、職員ペースにならないよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から希望を聞いたり、要望を言われたい方に対しても、こちらからお声をかけさせて頂き自己決定出来るよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など決められている事もありますが、本人様の1日1日を大切に希望にそえるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフが選んだ衣類を着て頂いている利用者様もみえますので意思疎通の難しい方でも、本人様の希望にそった衣類を着て頂けるよう支援していきたいと思えます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフが同じテーブルで食事をし関わりを増やしています。野菜を切ったりの調理の準備や食器洗いを一緒に行っています。	ホームの広い畑で、農業経験のある職員を主にして育てた旬の野菜や、近くの移動魚市場の新鮮な魚を食材として提供している。季節のおせち、恵方巻、流しそうめん、土用のうなぎ、外食の寿司も楽しみである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分をあまり摂って頂けない方に対しても根気よく声かけしその方にあつた物を提供し、なるべく1日1000cc以上摂って頂けるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけ、介助をさせて頂いております。拒否される方に対しても根気よく声かけさせて頂いております。週一で歯科衛生士に口腔ケアをして頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、夜間ともにトイレでの排泄を大切にし声かけを行い本人様に合わせた排泄支援を行っています。	排泄記録を参考に、職員会議に快適な排泄支援について話し合い、実践している。夜間就寝中に失禁のある利用者は、夜間に限りリハビリパンツを使用し、日中は布パンツを着用して過ごすよう見直している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給時にはお好みに合わせてきな粉牛乳などを提供させて頂き予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は決まっておりますが、本人様の希望を聞き入浴して頂いております。拒否される方に対してもその方の状態を見ながら声かけなど工夫しております。	週3回の入浴を基本に、体調の変化や利用者の希望を考慮して柔軟に支援している。自立歩行の難しい利用者も、入浴台、バスボード等を利用し、安全を確保した湯船での入浴に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動していただいておりますが、居眠りをされている方に対しては居室で休んで頂くなどの対応もしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の大切さを理解し服薬ミスのないよう努めています。症状の変化により看護師とも連携を取っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割や趣味など、その人らしい生活を大切に希望を聞きだし、出来るだけ答えられるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望にそって買い物や喫茶店などに出掛けています。季節によってはホーム全体での外出支援も行っています。	毎月1回以上の行事を計画し、外出に力注いでいる。日課の散歩、近所のコンビニ・喫茶店利用、テーマパークへのドライブ、外食、ショッピングモールへのお出かけ、家族参加の食事付き花見等々、外出の機会は多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル予防の為金庫で管理しています。外出の際はご自分で支払いをして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族へ電話をかけたいと要望があれば、事前許可を頂き電話連絡して頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングで過ごされる方も多く役割や体操など利用者様同士のコミュニケーションの場として、明るい雰囲気作りに努めています。	季節を感じる飾りつけや行事の写真を、華美にならない程度に掲示している。日中殆どの利用者が過ごす食堂兼リビングは、利用者の相性や介助のし易さ等を考えて席を決め、穏やかに仲良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関のソファで音読をされたり、居室でのんびりと過ごされたり、リビングでは仲の良いご利用者様同士お話をしてお過ごしておられます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物や写真などが飾ってあり、その方に合った居室作りにつとめています。	利用者、家族の希望のものを持ち込んでいます。家族の写真、漫画本、小説、目覚まし時計、テレビ等が並んでいます。人の往来の多いリビング前の居室は、ドアの外にカーテンを設けて他者の視線に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置が分かりやすいよう廊下に動線テープで印をつけています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100046		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームやないづ 松ユニツ		
所在地	岐阜県岐阜市柳津町梅松1丁目91-1		
自己評価作成日	平成28年 8月28日	評価結果市町村受理日	平成28年 9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2190100046-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成28年 9月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者、ご家族の要望を取り入れたケアプランを作成し、個別支援を行っています。定期的に外出支援を行い、マンネリ化しない生活を送り、又、ホーム全体で外出し、楽しみが共有できる様努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼や機会があるごとに運営理念を唱和する事で、スタッフは意識づけをし、利用者様にとってより良いサービスを目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事への参加依頼をご利用者様と行ったり、地域の清掃活動に参加させて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事等とおして、地域の方へ認知症の方に支援をお願いし、外出時に助けて頂く事もある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を開催、ホームの活動報告やヒヤリハット・事故報告を行い、頂いたご意見を取り入れ、サービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の入居状況のご連絡をさせて頂き、運営推進委員会の結果報告をさせて頂き、運営推進委員会では、身体拘束等のご相談をさせて頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全社的虐待、不適切ケア、身体拘束防止の取り組みを行っている。毎月、チェックシートでチェックを行い、スタッフへ周知している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切ケアの取り組みや、他ホームのユニットリーダーが中心となり、毎月、研修を行い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新たに生活支援員と契約されたご利用者がおられ活用、ご利用者の安心を提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時などは時間をかけて、ご質問頂いた際には分かりやすく説明しご理解を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段からの利用者様との会話の中から要望があれば、少しでも叶えられるよう努めている。また面会時やケアプラン更新時には、ご家族様からも要望を言って頂けプランに反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会議にてスタッフが気軽に意見を言える場を提供、普段からスタッフと会話し意見を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの資格取得に向けた支援を行っている。キャリアアップに向け介護技術向上となる指導を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月一回ホーム会議時に研修を行っている。外部の研修が受けれる際にはスタッフに参加を呼びかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホームへの応援要請もあり、一部のスタッフではあるが何う事が出来ケアの向上につなげていると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	より細かい情報を取り入れる事ができるようにアセスメントの見直しをする必要がある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御本人様のよりよい生活の為に、本人、ご家族の意見を伺い、安心して利用して頂けるようこまめにアセスメントを行いより良いケアに繋げる必要がある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様や、ご家族様の思いを伺い、より良いサービス、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の会話も自然な感じを大切にしている。お話を傾聴する姿勢を基本としている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者とスタッフは共に生活している意識を持ち日々接していけるように努め、面会時には、ご本人様の様子をこまめに伝え、ご家族で過ごす時間を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の生活歴の把握に努め、気持ちを大切に時間がかかっても真の要望が叶う様にアセスメントしていく。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットだけでなく、ホーム全体としてスタッフもご利用者様も交流があり、気持ちを第一に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後にご家族様が野菜を持参し、ホームでは、自宅にいる時と違う笑顔が多かったとお話しを頂いたり、良いサービスをしてもらったとお礼に来られたご家族様との交流が毎年ある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話を大切にし本人様の意向を伺えるようにしている。意思疎通の出来ない方に対してはご家族様から意向を伺っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から生活歴などを聞き取り把握に努め、アセスメントを深めていく努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の事を日々観察しスタッフ同士で情報を共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やホーム会議でご本人様やご家族様の意見、思いを伺い本人様にあった介護計画につなげている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子、状態の変化など記録に残しケアプランの更新の際にいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医師、看護師等連携して、ご本人様の状態やご家族様の意向を伺いながら個別ケアプランに生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居時より、理美容、歯医者、医療連携、図書館等利用できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回提携医が往診に来て下さいます。また本人様やご家族様の希望により馴染みの病院へ通院される利用者様もみえます。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や表情、変化、気付いた事、また本人様の訴えがあった場合は看護師と連絡を取り相談できる体制となっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご利用者様の情報を医療機関に提供し入院中の経過につきましてはご家族様から連絡を頂き、またお見舞いにも行かせて頂いております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じその都度ご家族様、主治医、看護師、職員が連携を取り支援していけるよう努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修にて定期的に急変時や事故発生時などの対応などの研修を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っています。業者の方からイーバックチェア—の使用方法を学びましたが、スムーズに避難誘導するには、訓練を何度も行うことが分かりました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令口調ではなく人生の先輩である事を忘れず丁寧な声かけをするようスタッフは意識している。法人として、不適切ケアの取り組みを行い対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から希望を聞いたり、要望を言われない方に対しても、こちらからお声をかけさせて頂き自己決定出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など決められている事もありますが、本人様の1日1日を大切に希望にそえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせ、衣替えを行い、夏でも重ね着をされるご利用者様に、長生きするためのご理解を頂き、ご自分から脱がれるようにお声かけしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一部の利用者様ではあるが、準備や片付けなどその方の意思を尊重しつつ手伝って頂いております。食事でもスタッフが同じテーブルで食べる事で関わりを増やしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の記録のまとめとして、夜勤者が看護記録へ落とし込みご家族様へご報告させて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけであったり介助させて頂いております。拒否される方に対しても根気よく声かけさせていただいてます。居宅療養管理指導にて歯科の口腔ケアをうけておられるかたもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、夜間ともにトイレでの排泄を大切にし声かけを行い本人様に合わせた排泄支援を行っている。介護5のご利用者様もトイレでの排泄ケアに努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	冷たい牛乳を提供したりしてぎりぎりまで薬に頼らないように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人様の希望を聞き入浴して頂いております。拒否される方に対してもその方の状態を見ながら声かけなど工夫しております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動していただいておりますが、居眠りをされている方に対しては居室で休んで頂くなどの対応もしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の大切さを理解し服薬ミスのないよう努めている。症状の変化により看護師とも連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割や趣味など、その人らしい生活を大切にし希望を聞きだし、出来るだけ答えられるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望にそって買い物や喫茶店などに出掛けています。季節によってはホーム全体での外出支援も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル予防の為金庫で管理していますが、外出時に「お金はらわなあかん。」等ご自分の意思を言って下さる時は、ご自分で支払して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご家族様に了解をとり、連絡できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、ご利用者様と一緒に清掃を行い活動出来やすいようにしている。季節感を味わって頂け活動しやすい場となるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で漫画本を読んだり、お互い声かけ、本の貸し借りをされ交流をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物や写真などが飾っており、その方に合った居室作りにつとめています。入居時にご家族へ馴染の家具の持ち込みをお願いしているが、新しい家具が多くなっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人様の出来る事を観察しながらスタッフと一緒に役割などをして頂き、自立した生活が送れるよう支援しています。		